

「境界」から考える住宅

空間のつなぎ方を読み解く

大塚篤 | 是永美樹 [著] Atsushi Otsuka, Miki Korenaga

充実の51事例!

彰園社

住宅の「境界」の今がわかる!

境界から考える住宅

空間のつなぎ方を読み解く

大塚篤 是永美樹 著

Atsushi Otsuka, Miki Koenaga

日本の伝統的な住宅には、四季の移ろいに応じて室内を快適にする工夫、温暖な気候のもと自然を感じるつくり、使い方に応じた設え、格式などを表す装飾などに代表される様式など、住宅の内部と外部のつなぎ方や室同士の関係性を調整するさまざまな仕組みがある。

たとえば、強い日差しや雨から身を守る屋根の先には、風を感じながら過ごしたり、屋外の作業場所を確保する軒下空間が生まれ、その下には室内から一段下がって地面に近づき外と内の緩衝空間となる縁側がある。柱間には壁と建具がはめ込まれ、壁には外を眺める窓が開けられ、季節や天候に応じて建具の開け閉めを選択し、光と風を取り込んだり遮ったりする。一段高い天井や床は、特別な場としての意味をもち、住宅に格式のある領域をつくる。

—

このような仕組みは、住宅の外と内、内と内の境界として、日本の伝統的な住宅にはごく普通に取り入れられてきた。貴族住宅、農家、町家など身分や地域によってさまざまな住宅の形式があり、それら日本の住宅には、機能もつくりも異なる境界が多用されてきた。

このような境界は、地域や気候に応じた住まい方に対する知恵や、日本人の風土に対する姿勢や生活文化を表しているともいえる。

—

高度成長期には、都市の高密化や環境汚染などの周辺環境の悪化、核家族化など、住宅を取り巻く社会情勢が大きく変貌し、住宅のあり様も多様化した。

住宅は周囲とのかかわりを避け、壁で閉ざすようになり、特に都市部では限られた敷地の中で、個々の住環境が完結するような住宅が多くつくられた時代もあった。

—

また「nLDK」という表記が示しているように「個室化」が住宅の価値づけを左右し、プライバシーの確保された個室の数で住宅の良さを評価するような不動産的な価値観が、住宅業界を支配する時代もあった。

現在でもその傾向は残るが、一方で家族形態の変化、住まい方の多様化、近隣とのかかわりをつくろうとする地域社会、素材や工法の技術の進歩、気候変動による温暖化に対する省エネルギーへの配慮など、住宅を取り巻く社会状況の変容により、住宅に求められる価値観も変容している。

—

本書では、それぞれの敷地条件や施主の要望に応えるかたちで、建築家によるさまざまな「境界」が提案された住宅を紹介している。

これらの住宅では、周辺環境とのかかわり方や家族同士の関係に選択性を与え、住まい方に応じた「境界」がつけられている。

このような「境界」には、現代に求められる多様な住まい方を受容し、プロトタイプ的ではない個々の住まい方に応じた自由で豊かな住宅をつくる可能性が秘められているのではないかと考える。

—

以下、本書の構成を解説する。

—

まずchapter1では、日本の伝統的な住宅で用いられてきた境界の仕組みを7つの手法に整理して読み解きながら、chapter2で紹介する51の住宅でつくられた「境界」を整理した。つくられた時代も背景も異なるため、

まったく同じ境界とはいかないが、手法としてのエッセンスには両者に相通ずる点を感じられるのではないだろうか。

—

chapter2は本書の主となる章である。51の住宅に見られるさまざまな「境界」について、平面や断面の構成でつくられた「境界」、窓辺や家具など部位のつくる「境界」、新しい素材や仕組みでつくられた「境界」、リノベーションにより再構成された「境界」など、その具体的な「境界」の仕組みや工夫を手法別に読み解いている。

—

chapter3では「境界」をつくる要素として、伝統的な建具と新しい素材や近年求められる省エネルギーに関する項目別に、その特性と設計時の注意点をあげている。計画の際に、基礎資料として活用していただきたい。

—

伝統的な住宅に埋め込まれてきた境界としての場の魅力と仕組みとしての手法がどのように解釈され、現代の住宅にふさわしい「境界」として展開されているのだろうか。そこには現代の住空間を豊かにするヒントがあふれ、これからの住文化をつくっていく知恵が隠れているのではないかと考える。

—

2017年8月 是永美樹

目次

はじめに——日本の住宅の「境界」を考える 004

chapter1
伝統的な境界と現代の境界 010

- 縁側 012
- 土間 014
- 坪庭 016
- 屋根・天井 018
- 床 020
- 壁と窓 022
- 仕切り 024

chapter2
事例から読み解く境界の手法 026

- introduction01 028
事例から読み解く7つの境界カテゴリー
- introduction02 029
事例から読み解く境界の種類と手法

A 建築全体でつくる境界

1 内と外の境界

- 01 | カーザ・リベラ 032
西森陸雄/西森事務所
- 02 | アンタノイエ 034
小泉雅生/メジロスタジオ
- 03 | 軽井沢離山の家 036
横田典雄+川村紀子/CASE DESIGN STUDIO
- 04 | 窓の家 036
吉村靖孝建築設計事務所
- 05 | 森のすみか 038
前田圭介/UID
- 06 | House N 038
藤本壮介建築設計事務所
- 07 | 八ヶ岳の別荘 040
千葉学建築計画事務所
- 08 | 能代の住宅 042
納谷学+納谷新/納谷建築設計事務所
- 09 | 南の家 042
八島正年+八島夕子/八島建築設計事務所
- 10 | 綴の家 044
植木幹也+植木茶織/スタジオシナプス
- 11 | にわのある家 046
近藤哲雄建築設計事務所

2 内と内の境界

- 12 | だんだんまちや 048
アトリエ・ワン
- 13 | ノラ・ハウス 048
東京工業大学塚本研究室+アトリエ・ワン
- 14 | トラス下の矩形 050
五十嵐淳建築設計
- 15 | ハウス・アサマ 050
アトリエ・ワン+東京工業大学塚本研究室
- 16 | 川口邸 052
保坂猛建築都市設計事務所
- 17 | 比叡平の住居 054
タトアーキテクト/島田陽建築設計事務所
- 18 | 2004 056
中山英之+名和研二
- 19 | 方の家 058
武井誠+鍋島千恵/TNA
- 20 | 矩形の森 058
五十嵐淳建築設計
- 21 | House H 060
藤本壮介建築設計事務所
- 22 | 桜台の住宅 060
長谷川豪建築設計事務所
- 23 | 光の郭 062
川本敦史+川本まゆみ/エムエースタイル建築計画

3 機能をもたせた境界

- 24 | IS 064
渡辺真理+木下庸子/設計組織ADH
- 25 | 世田谷S 066
都留理子建築設計スタジオ

| | | |
|----|-------------------------|-----|
| 26 | pallets | 068 |
| | 駒田剛司+駒田由香/駒田建築設計事務所 | |
| 27 | ギタンジャリ | 070 |
| | 椎名英三建築設計事務所 | |
| 28 | 緑縁の栖 | 072 |
| | 川本敦史+川本まゆみ/エムエースタイル建築計画 | |
| 29 | 川西の住居 | 074 |
| | タトアーキテクト/島田陽建築設計事務所 | |

B ゾーンや部位でつくる境界

4 窓辺を居場所にする境界

| | | |
|----|--------------------|-----|
| 30 | 北鎌倉のような家 | 076 |
| | 佐藤浩平建築設計事務所 | |
| 31 | 後山山荘 | 076 |
| | 前田圭介/UID、藤井厚二(原設計) | |
| 32 | 森のドールハウス | 078 |
| | 早草陸恵/セルスペース | |
| 33 | 永山の家 | 080 |
| | 丸山弾建築設計事務所 | |
| 34 | 野沢の家 | 082 |
| | 藤岡新/プラッツデザイン | |

5 家具・造作と一体化した境界

| | | |
|----|---------------------------------|-----|
| 35 | s house | 084 |
| | 松野勉+相澤久美/ライフアンドシェルター社+池田昌弘/MIAS | |
| 36 | Blanks | 086 |
| | 稲垣淳哉+佐野哲史+永井拓生+堀英祐/Eureka | |
| 37 | U&U HOUSE | 086 |
| | 塚田眞樹子建築設計 | |
| 38 | 白い箱の家 | 088 |
| | 高安重一+添田直輝/建築研究室 高安重一事務所 | |

| | | |
|----|------------------|-----|
| 39 | HOUSE YK/Islands | 088 |
| | 赤松佳珠子/CAAt | |

6 多様化するスクリーンの境界

| | | |
|----|-------------------------------|-----|
| 40 | スケルトン・ウォール | 090 |
| | 濱田修/濱田修建築研究所+大野博史/オーノJAPAN | |
| 41 | 六日町の家 | 090 |
| | 奥野公章/奥野公章建築設計室+我伊野威之/我伊野構造設計室 | |
| 42 | ナチュラルスラット | 092 |
| | 遠藤政樹/EDH 遠藤設計室+池田昌弘/MIAS | |
| 43 | 富ヶ谷の住宅 | 092 |
| | 井上洋介建築研究所 | |
| 44 | 平塚の家 | 094 |
| | 甲村健一/KEN 一級建築士事務所 | |
| 45 | キリのキヨリのイエ | 096 |
| | 小島光晴/小島光晴建築設計事務所 | |

A 建築全体でつくる境界

R リノベーションでつくる境界

| | | |
|----|-------------------------------|-----|
| 46 | 貝塚の住宅 | 098 |
| | 荒木洋+長澤浩二/AN Architects | |
| 47 | カテナハウス | 100 |
| | 比護結子+柴田晃宏/ikmo | |
| 48 | 煉瓦倉庫の隠れ家——時の継承 | 102 |
| | 河口佳介+K2-DESIGN | |
| 49 | 不動前ハウス | 104 |
| | 常山未央/mnm | |
| 50 | RENOVATION M | 106 |
| | 武藤圭太郎建築設計事務所 | |
| 51 | 上大須賀の家 | 106 |
| | 谷尻誠+吉田愛/SUPPOSE DESIGN OFFICE | |

chapter3

境界をつくる部材の機能と特徴 108

| | | |
|---|---------------|-----|
| — | 格子 | 110 |
| — | 障子 | 112 |
| — | 襖 | 114 |
| — | 布 | 116 |
| — | 金属スクリーン | 118 |
| — | ガラスブロック | 120 |
| — | 花ブロック | 122 |
| — | 日射遮蔽装置 | 124 |
| — | ラジエーター輻射式暖房設備 | 126 |
| — | グリーンカーテン | 128 |
| — | 室をつなぐテーブル | 130 |

| | | |
|---|---------|-----|
| — | おわりに | 132 |
| — | 写真クレジット | 134 |

本書における事例の分析と 図・写真の加工について

掲載する事例については、主に以下のような視点から図解し、分析を試みた。

- ・ 動線(行き来できるか)や空間のつながり方
- ・ 視線(室内または外へ視線が通るか)
- ・ 採光と通風(周辺自然条件をどのように取り入れているか)
- ・ 緑地や道路など周辺の状況とどう関わっているか
- ・ 注目すべき部位などの寸法

上記を考慮しながら事例の図面や写真に考察を書き込み、図から空間の特性が浮かび上がってくるような表現を試みた。

主な凡例



ほか、緑地や領域としての広がりには色のアミをかけ、グラデーションなどの処理を適宜行っている。

縁側

→ 伝統的な境界

内と外とをつなぐ、厚みのある境界

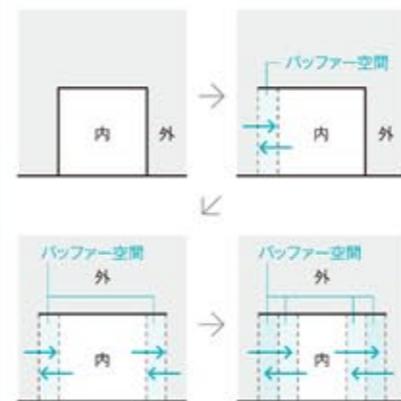
縁側は、内外の狭間に設けられた室内空間の縁である。その深い軒の下には、内を延長した場所とも、外を引き寄せた場所としても解釈できる、半屋外的な空間が形成されていた。さらに縁側は、人の動線や日射の調整、室の拡張、収穫したものの加工作業など、さまざまな機能の場として活用されてきた。これらの特性が込められた「厚みのある境界」は、現代の住宅作品のなかでも、テラスやサンルーム、廊下などに姿を変えながらも、周辺環境と室内とのつながりを調整し、人の居場所にもなるバッファー空間として実践され続けている。



内外をゆるやかにつなぐ縁側
 (旧荻々木家/川崎市立日本民家園、享保16年〔1731〕)
 深い軒の出による日射調整、室の領域を拡張するなど、縁側まわりの空間が内外の関係を複合的に制御している

→ 現代の境界

縁側のように身にまとったバッファー空間



断面の構成

[バッファー空間で内を縁取る]

従来の縁側とは姿が違っても、内と外とのバッファー空間を、住宅の周縁部分にまとう手法は、現代でも比較的多く見られる。バッファー空間のまとい方は、日当たりの良い南面に設けたケース、前面道路と庭などの2面で挟み込んだケース、全周をバッファーでくんだケースなどに大別できる。なかには、幾重にもバッファー空間を重層させた事例も見られる。

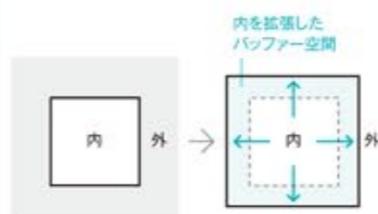
[chapter2の主な関連事例]

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 06 | 07 | 08 | 09 | 13 | 14 | 16 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 30 | 31 |
| 43 | | | | | | |

内や外の一部に見立てたバッファー空間

[バッファー空間へ内を拡張する]

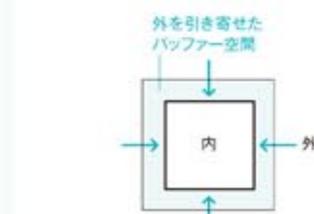
バッファー空間を、室内的な場として見立て、適宜、室を拡張可能にする方法である。普段は動線として設けた空間を、夏期は建具を開放して室の一部にしたり、冬期は閉め切って、大きな断熱層として役立てることもできる。



平面の構成

[バッファー空間に外を引き寄せる]

一方、室内のバッファー空間であっても、外を引き寄せた場所として見立てる方法もある。このとき、外を想起させる要素として、土間やデッキ、砂利などの床、天窓からの採光、外壁同様の仕上げなどが用いられることが多い。



平面の構成

[chapter2の主な関連事例]

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 06 | 08 | 09 | 23 | 24 | 25 | 28 |
| 48 | | | | | | |

[chapter2の主な関連事例]

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 07 | 29 | 31 | 46 | 50 | 51 |
|----|----|----|----|----|----|



八ヶ岳の別荘 | 千葉学建築計画事務所
 外側を巡らせた回廊は、屋外側・室内側それぞれの開口によって、外の雰囲気を感じさせるバッファー空間になっている



IS | 渡辺真理+木下庸子/設計組織 ADH
 外付けアルミルーバーや、半透明の建具などで包んだサンルームが、内外をゆるやかにつなぐバッファー空間を形成している



後山山荘 | 前田圭介/UID、藤井厚二(原設計)
 外の縁側と和室をつなぐバッファー空間である廊下の床を1段下げ、敷石と砂利で外部的な演出をしている

土間

→ 伝統的な境界

外の要素を内に包み込んだ境界

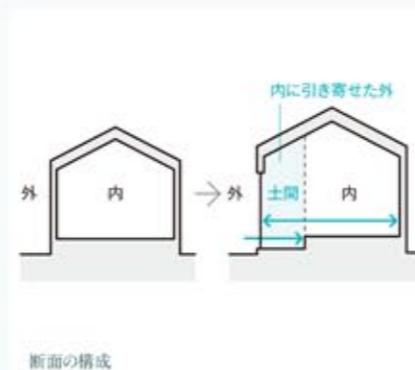
かつての土間は、住宅を構成する諸室のひとつとして、比較的大きな割合を占めていた。それは、暮らしに必要でも床上では不都合な、火や水を使った調理や、ごみや埃の出る作業などを、屋内で行うことができる場であった。土間の空間を構成する、地面のような三和土の床仕上げ、小屋組を露した高い天井や吹抜け、排煙や採光を目的とした高窓・天窓など、外を想起させる要素に注目すると、現代の住宅設計のなかにも、土間的な手法を見つけることができる。

カマドのある土間と、囲炉裏のある広間を見る(旧北村家住宅/川崎市立日本民家園、貞享4[1687]年)
三和土の床、外とつながる大きな開口、高い天井高など、外のような要素をもつ土間が、床上空間とともに、ひとつの大屋根の下に設けられている



→ 現代の境界

室内でも外を感じさせる土間



[室内に床と土間をあわせもつ]

室内に土間を設けると、実際の外形と、心理的な内外の輪郭という、2重の境界ラインが引かれる。それは、それまで一様であった室内に、空間的な差をつくり、床と土間、各々にふさわしい過ごし方、使い方に気づきかけとなるだろう。

[chapter2の主な関連事例]

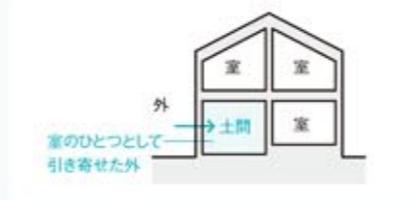
05 | 23 | 24 | 31 | 46 | 47 | 48 |
49 | 51 |

[土間を室のひとつに見立てる]

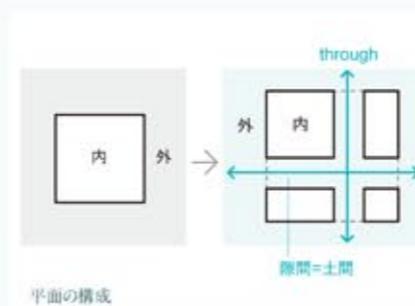
土間を、室と等価な存在として扱ったり、インナーテラスとして見立てることで、外を身近に置いた、内外が入り交じるような室内空間を形成することができる。また、「室だと思って覗いてみたら、実は外だった」という意外な状況も生じる。

[chapter2の主な関連事例]

11 | 16 | 46 | 47 | 51 |



室内を通り抜けるような外

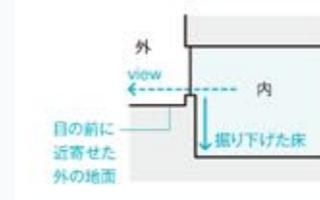


[地面を意識させる]

室内床は、大抵地面よりも上にあるものだから、床を掘り下げると、外の地面が強く意識される。地面に対して、普段と異なる低い視点で眺めれば、動物が地中の巣穴から外の様子をうかがうように、地面との新鮮な関係が生じる。

[chapter2の主な関連事例]

11 | 18 |



[隙間に外が入り込み、抜けていく]

室内が、いくつかに分節されたボリュームと、それらの隙間で構成された住宅を想像してみる。このとき、隙間を土間に見立てたり、隙間の端部を開放的に設えると、室内でありながら、外が通り抜けていくような空間が形成される。

[chapter2の主な関連事例]

01 | 03 | 04 | 25 |



上大須賀の家 | 谷尻誠+吉田愛/
SUPPOSE DESIGN OFFICE
入れ子にしたLDKとそれを囲んで1段下げた土間。むき出しのRCの床は、仕上げられたLDKを差異化する



煉瓦倉庫の隠れ家——時の継承
河口佳介+K2-DESIGN
既存倉庫のレンガ壁と内を囲む透明な壁の隙間を外に見立て、内に居ながら外を感じるような広がりを出す土間



川口邸 | 保坂猛建築都市設計事務所
頭上のV型梁によってゆるやかに分節された内部空間のひとつが、屋外のような居場所として位置づけられている



カーザ・リベラ | 西森陸雄/西森事務所
居室や水まわりをまとめた3つのボリュームの隙間が、外が通り抜けるような動線の空間として位置づけられている

51

48

16

01

1-1-3 外が入り込む境界 → 内外を混在させる

05 内外を合わせて包み込む箱

森のすみか

設計者：前田圭介/UID
建設地：広島県尾道市 | 竣工年：2010年

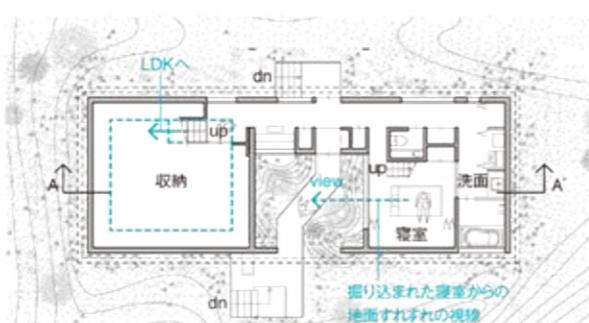


子供室からテラス越しにLDKを見る
箱の内側では、建具を開放すると、半外部のテラスと室内がひとつながりの空間になる

各所に穴をあけた箱によって、屋外の環境と室内とを合わせて包み込んだ住宅である。「森のプラットフォーム」と呼ばれる2階スラブ上では、中央のテラスの建具を開放すると、内外が箱の中で渾然一体となる。また、床の開口からは、2階より掘り下げたリビングや1階アプローチの樹木などが顔を出すなど、箱の上下左右に、内外からじみ合うような境界が形成されている。



建具を閉じると、箱の内側はテラスを中庭のように狭む構成
建具を開放すると、箱の内側は外の空気が湿り合う空間になる



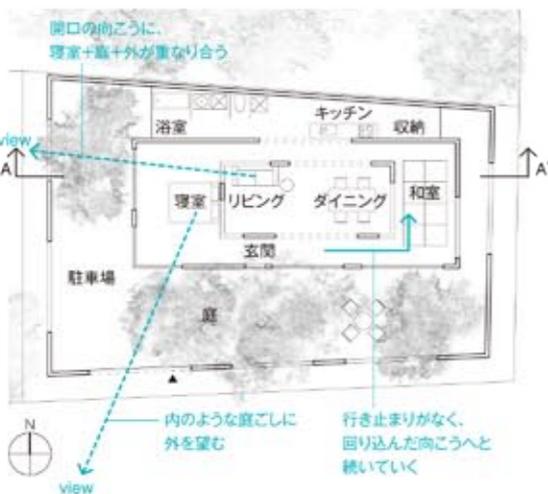
2階の平面構成
1階平面図 1:300

1-2-1 周囲にバッファーをまとう境界 → 内外を混在させる

06 内外の距離感をつくり出す、重層する開口

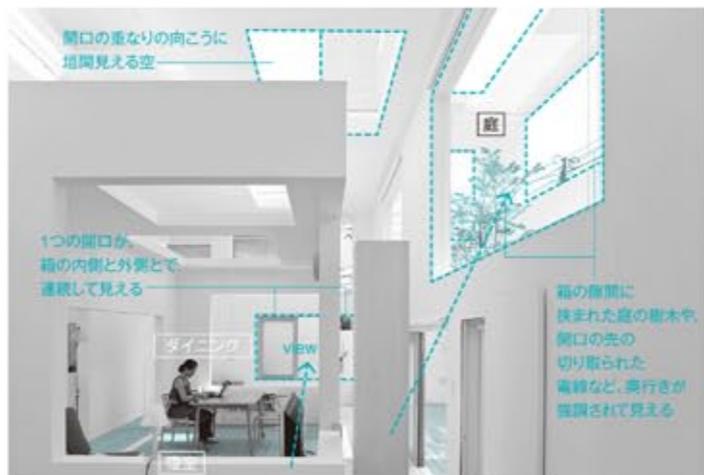
House N

設計者：藤本壮介建築設計事務所
建設地：大分県 | 竣工年：2008年

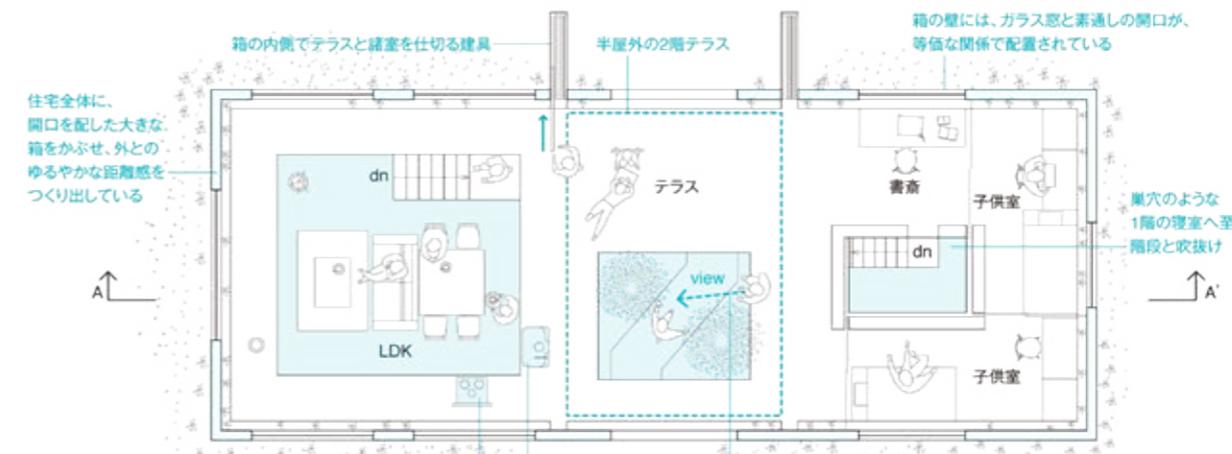


1階平面図 1:300

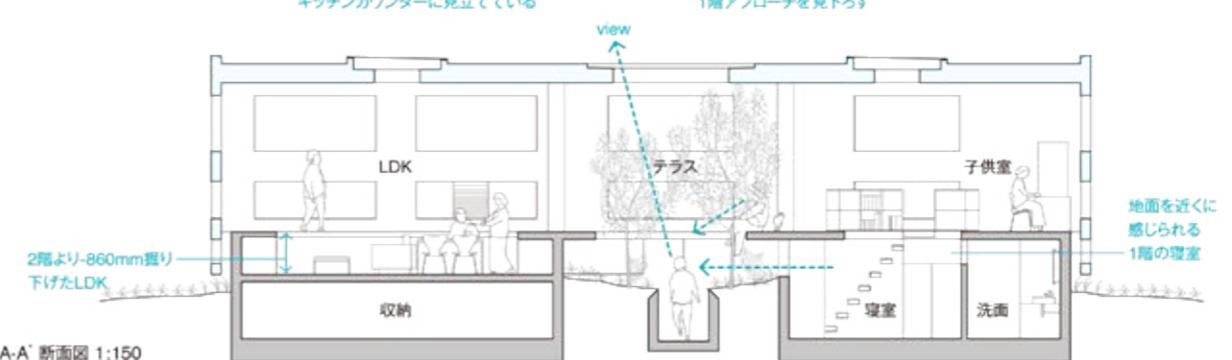
あちこちに穴をあけた箱を、3重の入れ子状に重ね合わせた住宅である。最奥の箱にリビングとダイニングを納め、その周囲を取り囲む箱同士の隙間に、住宅の諸室や機能、屋外空間が、入り交じるように配置されている。壁の開口は、ガラス窓と素通しの窓とを等価に扱っているため、内外の輪郭を曖昧にしている。また、開口同士の



寝室からダイニングを見る
3つの箱と各所に設けられた開口の重なり具合によって、やわらかく包まれたような内部空間と、どこに居ても完全に外と切り離されない居場所が形成されている

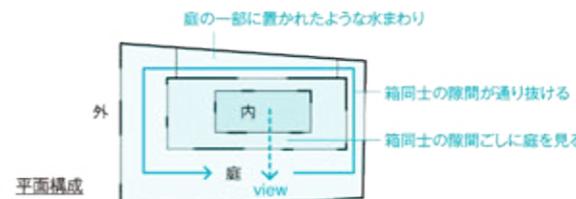


2階平面図 1:150

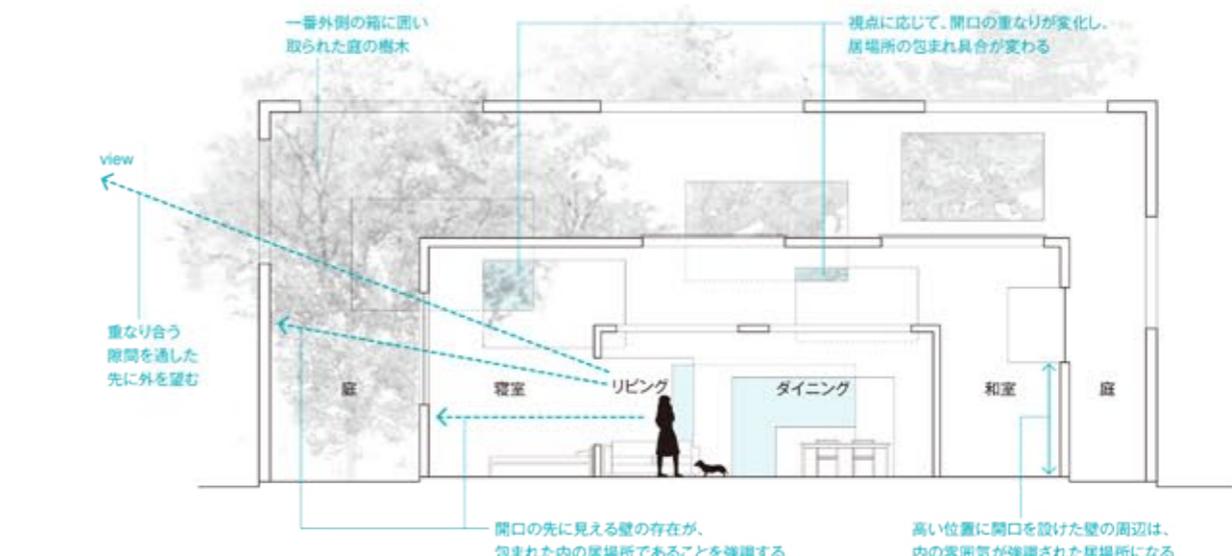


A-A' 断面図 1:150

重なりは、建物周囲の外部環境に対して、どこに居ても、開口の向こう側の居場所がバッファーとなり、内外の距離感を調整する境界がつけられている。



平面構成



A-A' 断面図 1:150

1 内と外の境界
2 内と内の境界
3 機能をもたせた境界
4 窓辺を居場所にする境界
5 家具・造作と一体化した境界
6 多様化するスクリーンの境界

A 建築全体としての境界
B リノベーションでつくる境界

2-5-1 室内窓でつなく境界
→ 規定された領域と滲み出す空間

21 室同士を立体的に
関係づける室内窓

House H

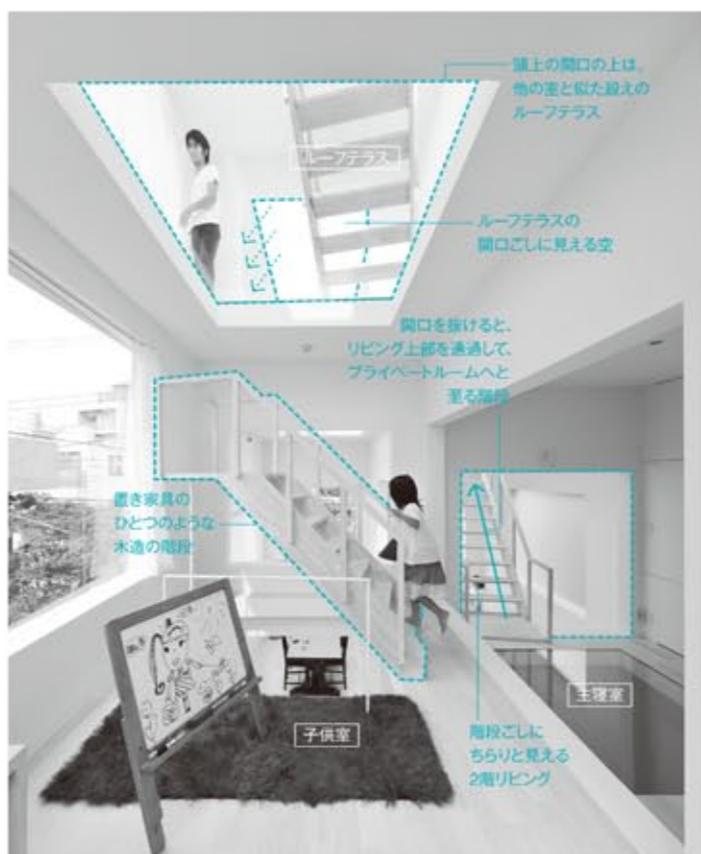
設計者：藤本杜介建築設計事務所
建設地：東京都 | 竣工年：2009年

3層に積み上げた10個の室同士が、それぞれの床・壁・天井の開口によって、相互に立体的なつながりをもつ住宅。上下左右で等価な意匠をもつ開口の向こう側には、隣接する室があったり、レベル差の加減で吹き抜けていたり、あるいは室ごしに外の景色を垣間見る。これら室内窓は、限定された空間内で、多様に室同士を関係づける境界といえる。

また、開口をくり抜けるように、室同士に渡し掛けられた木造階段は、立体的に配置された室内を自由に渡り歩き、自分の場所を探すようなイメージを喚起させる。

子供室から上下左右の開口を望む

開口の先には、室であったり、外のような場所であったり、わずかにずれていたり、それらに同時に隣り合った関係が作り出されている



2-5-2 室内窓でつなく境界
→ 入れ子の室と相互のつながり

22 「テーブル」に向き合う
室内窓

桜台の住宅

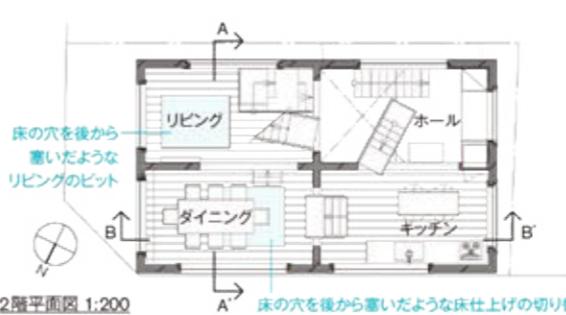
設計者：長谷川豪建築設計事務所
建設地：三重県 | 竣工年：2006年

「テーブル」と名づけられた吹抜け空間の周囲を、1階は個室や水まわり、2階はLDKなどが取り囲んだ構成の住宅である。

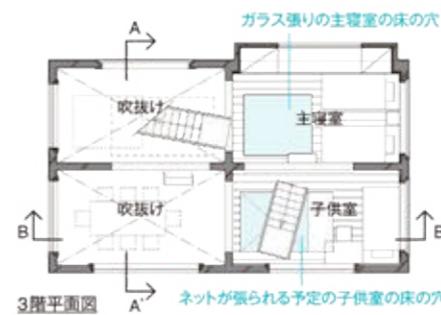
1階では、「テーブル」の床レベルを719mm上げているため、各室との間の開口は、あたかも、個人個人が食卓を囲むような状況をつくり出す境界となっている。また、ロの字型平面の2階においては、中庭のような「テーブル」上部の吹抜け越しに、対面する室を眺めると、一旦、外を挟んで向かい合うような距離感が作り出されている。

書斎から見た「テーブル」

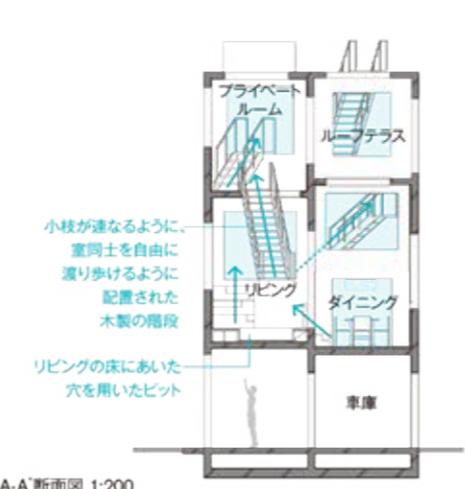
それぞれの室から、4,000mm角の「テーブル」に向き合う



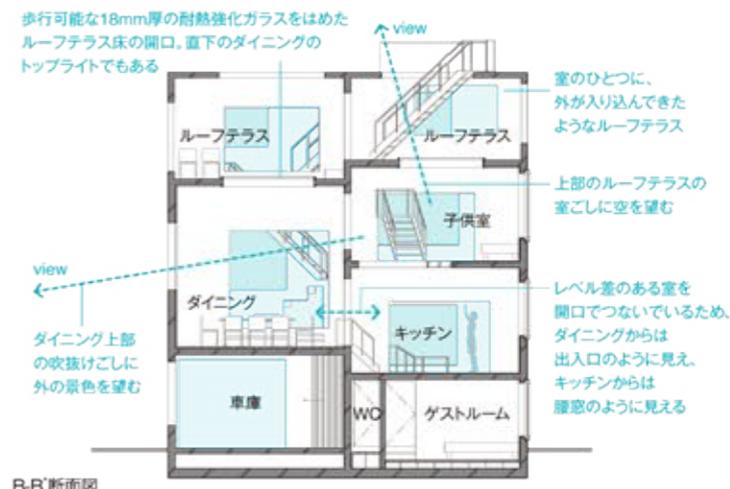
2階平面図 1:200



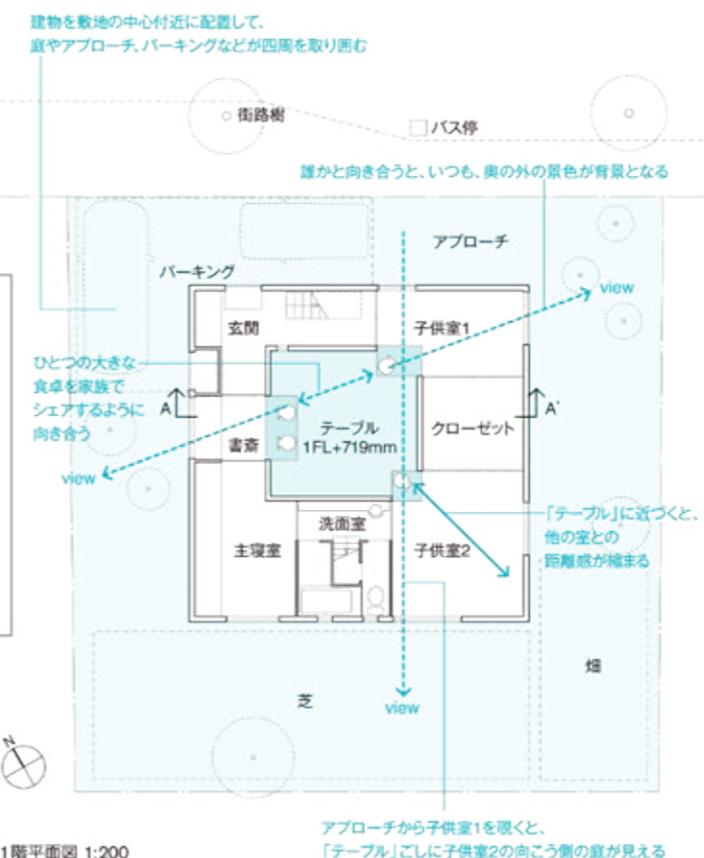
3階平面図



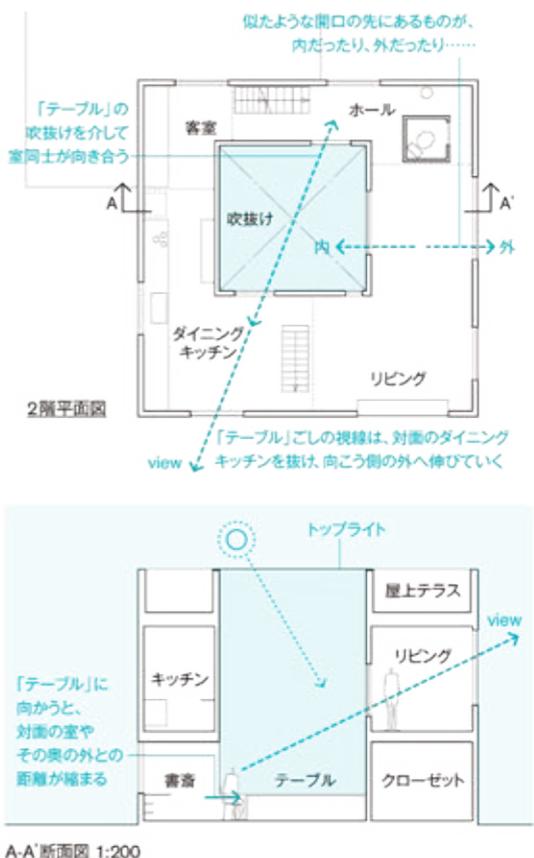
A-A断面図 1:200



B-B断面図



1階平面図 1:200



A-A断面図 1:200

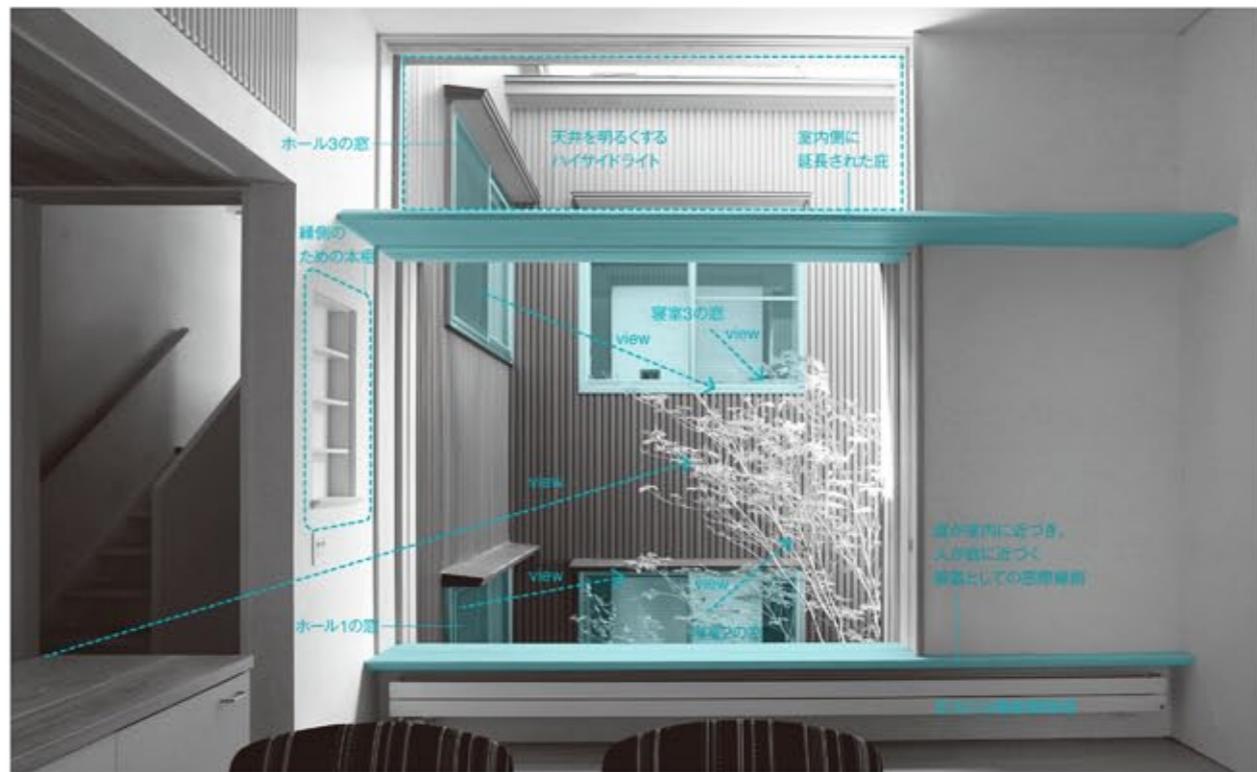
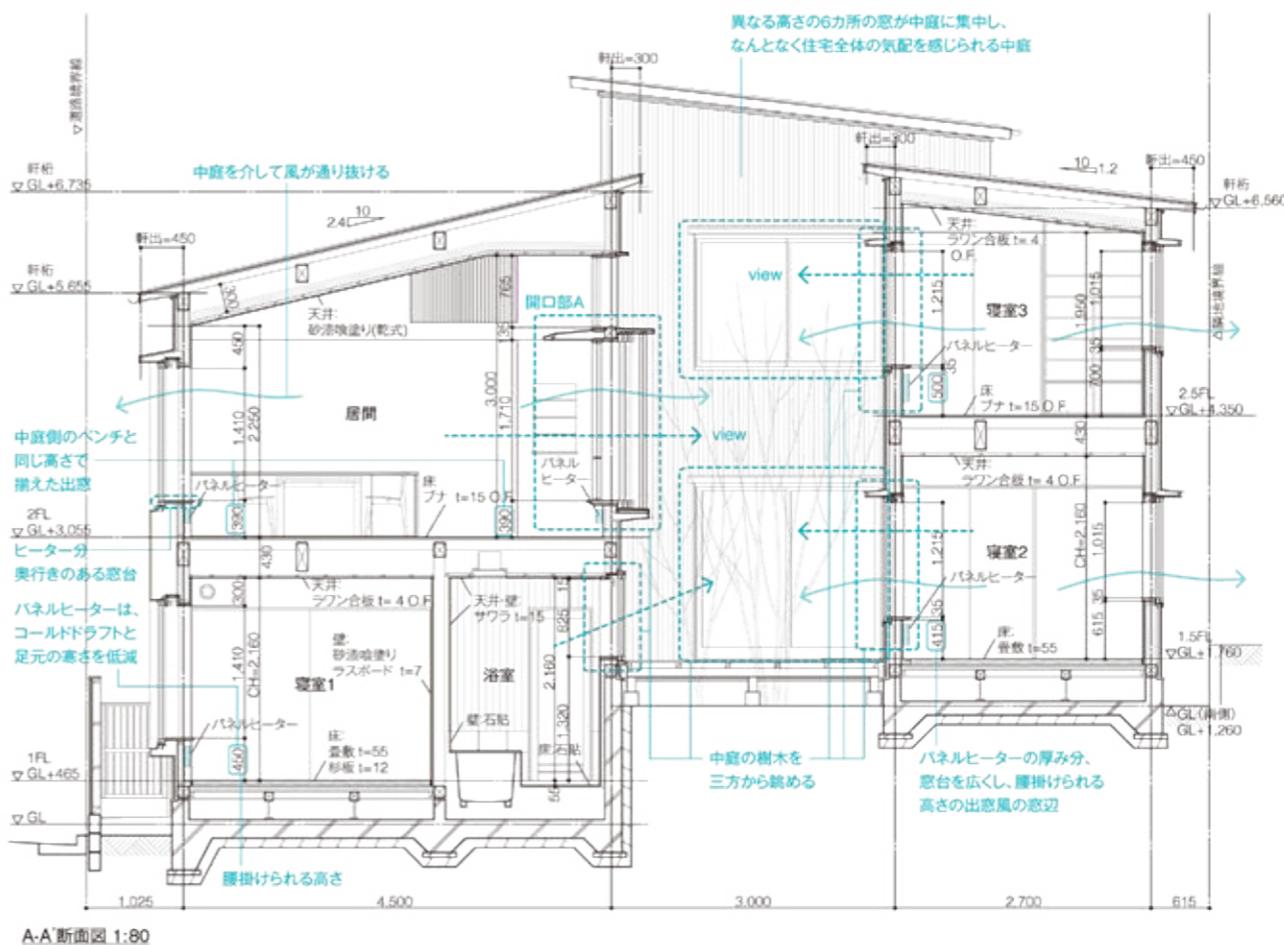
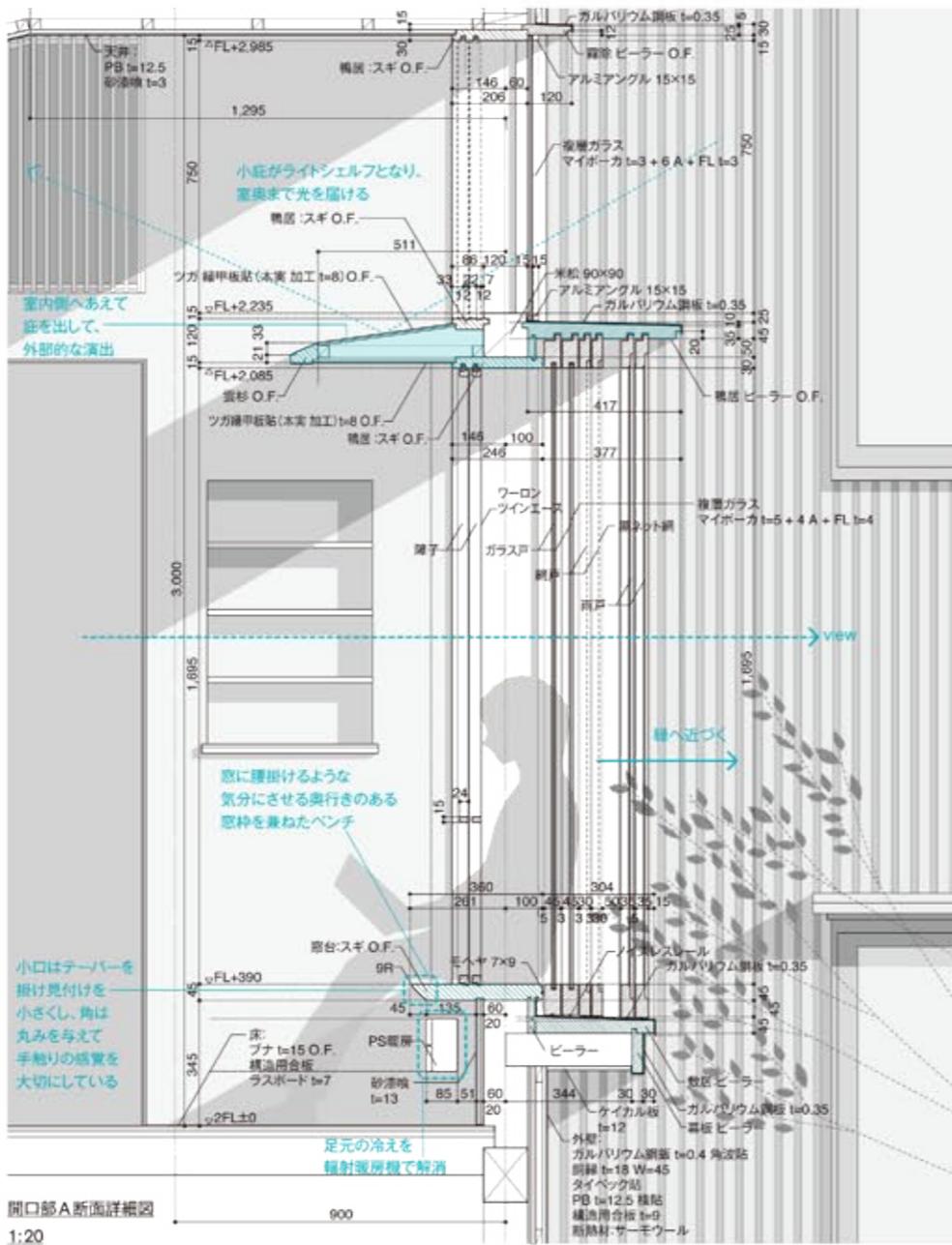
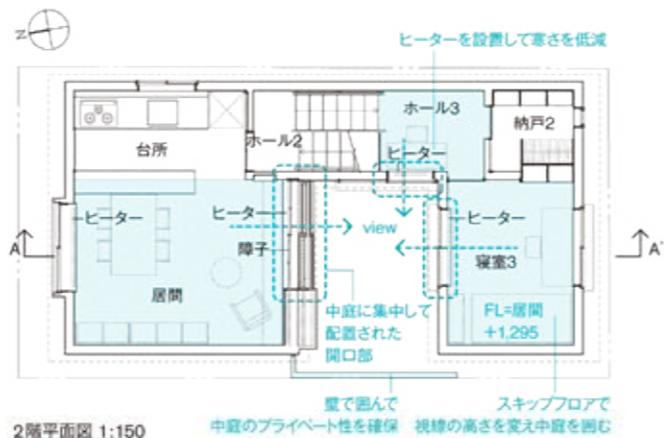
4-2-1 階をまたいだ室同士をつなぐ境界 → 出窓を居場所に見立てる

33 庭に飛び出て 緑に近づく腰掛窓

永山の家

設計者：丸山建築設計事務所
建設地：東京都多摩市 | 竣工年：2013年

丘陵地という敷地条件を活かしたスキップフロアの構成。レベルの異なる開口部を中庭に集中させ、光と風を確保しながら立体的な空間のつながりにより気配をどこからでも感じることができる住宅である。居間の窓辺は、中庭から半階上がったレベルになり、庭の植栽の葉に手が届く高さである。この庭にさらに近づいて外部を引き込む装置として、ライトシェルフを兼ねた小庇を室内側に延ばし、天井高3,000mmというやや高い窓際のスケール感を細分化している。縁側のような層の重なりをつくり、奥行きのある窓辺である。ガラス戸、網戸、雨戸は壁に引き込み、全面開放できる。腰掛けの下には足元ヒーターが設置され、冬でも寒くないように配慮されている。



2階 居間 室内側に延長された小庇とベンチは中庭の風景を切り取る額縁でもあり、また人が窓辺に近づくような家具的な装置にもなっている

1 内と外の境界
2 内と内の境界
3 機能を果たした境界
4 窓辺を境にする境界
5 家具・造作と一体化した境界
6 多様化するスリームの境界

A 建築全体への境界
2 内と内の境界
3 機能を果たした境界
R リノベーションでつくる境界
4 窓辺を境にする境界
B リノベーションでつくる境界
5 家具・造作と一体化した境界
6 多様化するスリームの境界